



# 東京大正博覧会での 日本初のエスカレーター運転

- 住所  
東京都台東区上野公園4
- 交通アクセス  
JR 上野駅  
公園口 約 300 m

## ■日本初のエスカレーターの運転

大正3年(1914)3月9日、東京上野公園で開催された東京大正博覧会において、第一会場と第二会場を結ぶ通路において、日本初のエスカレーターが試運転されました。

現在、この試運転を由来に、3月9日が「エスカレーターの日」になっています。

この運転は、明治33年(1900)、フランスで開催されたパリ万国博覧会において、シーバーガーがオーチス・エレベーター・カンパニーと手を組んでエスカレーターを出展(運転)してから14年後、また、東京・浅草凌雲閣において、日本初のエレベーターが運転されてから24年後のことでした。

## ■当時の図面での場所

図1は、博覧会が開催された年に発行されたと思われる記念絵葉書です。表題は「東京大正博覧会・会場案内図」で、不鮮明ですがエスカレーター



図1 東京大正博覧会の記念絵葉書(一部)  
出典 東京都立中央図書館デジタルライブラリー



写真1 日本最初のエスカレーター(絵葉書)  
出典 東京都立中央図書館デジタルライブラリー

の設置場所は、「エスカレーター」と記されている赤丸印の辺りで、「上野の山」の第一会場と「不忍池」の第二会場を結ぶ連絡通路に位置します。

## ■現在の状況

当時の図(図1)を参考に、現在の地図(図2)においてエスカレーターが設置されていた位置を追うと、不忍池から東照宮へ上る階段(図1の赤



図2 現在の地図でのエスカレーター設置跡  
国土地理院1万分の1地形図使用(上野、日本橋)



丸印の左斜上)に注目することで、赤丸印の位置にあったことになります。

現地を訪ねたところ、東照宮へ上る階段の下には鳥居があり、その前に道路とその先に動物園ホールがありました。地形は、道路を境に、東照宮側の地盤が動物園ホール側より高く、階段の段差と段数から、その高さは10m程になります。

その状況は写真2～4のとおりで、この写真からも分かるとおり、第一会場と第二会場を連絡する通路には、最初にこの地盤高差相当の高さの道路横断橋を設け、次にこの橋に登るところ(動物園ホールの辺り)にエスカレーターを設置したことが推測されます。

なお、この地盤高差相当の道路横断橋の設置については、現在、この場所から少し西側に行った場所に架かっているイソップ橋(動物園の西園と



写真2 エスカレーターの設置場所



写真3 道路横断部と鳥居



写真4 東照宮への鳥居と階段(74段)

東園の連絡通路)の設置形態からも推測されるところです。(写真3参照)

### ■エスカレーターの概要

詳細は不明ですが、「秒速1尺(30cm)で動き、これに乗るには10銭\*を必要とする」、宣伝文句として「わが国最新の自動階段」「実用と娯楽の併用機関」などが伝えられています。

なお、残されている絵葉書(写真1)から、写っている人の背丈から推測すると、高さは10m程であったと思われます。また、下側建屋の正面に「出口」の表示があることから、上下2方向の2台が設置されていたことも推察されます。

\*当時の物価は、そばが4銭、散髪が10銭ほどでした。

### ■常設のエスカレーター設置

日本の建築物で最初にエスカレーターが設置されたのは、東京・日本橋の三越呉服店(現三越日本橋本店)で、大正3年(1914)10月、新館の建設にあたり1階から2階に設置されました。



写真5 三越のエスカレーター  
(株)三越伊勢丹提供

設備自体は博覧会のものより一足早く出来上がっていました

たが、建物の開店の都合で博覧会のエスカレーターの方が一歩早い運転スタートとなりました。アメリカのオーチスエレベーター製で、1分間に60名程運ぶことができました。なお、このエスカレーターは、9年後の関東大震災で、浅草凌雲閣のエレベーターと同じく焼失してしまいました。

### ■参考

図1において、不忍池の上を横断して設けられている日本初の遊覧ケーブルカー(絵葉書)。

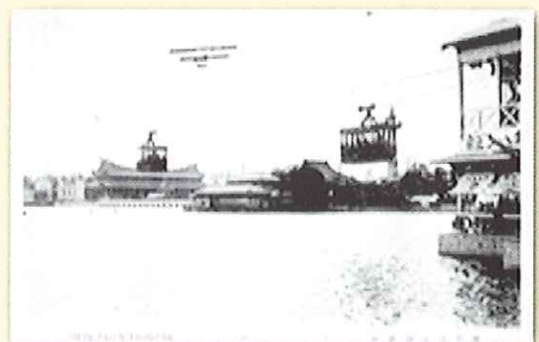


写真6 東京大正博覧会の遊覧ケーブルカー  
出典 東京都立中央図書館デジタルライブラリー